114
A 2181

八十一号

卿

輔　造幣權頭

記録權頭

慶応元年十月十六日　記録中務卿邦泰

自今造幣寮創業記年月

安政元年十月十六日大義大輔井上馨ヲ

造幣寮創業紀

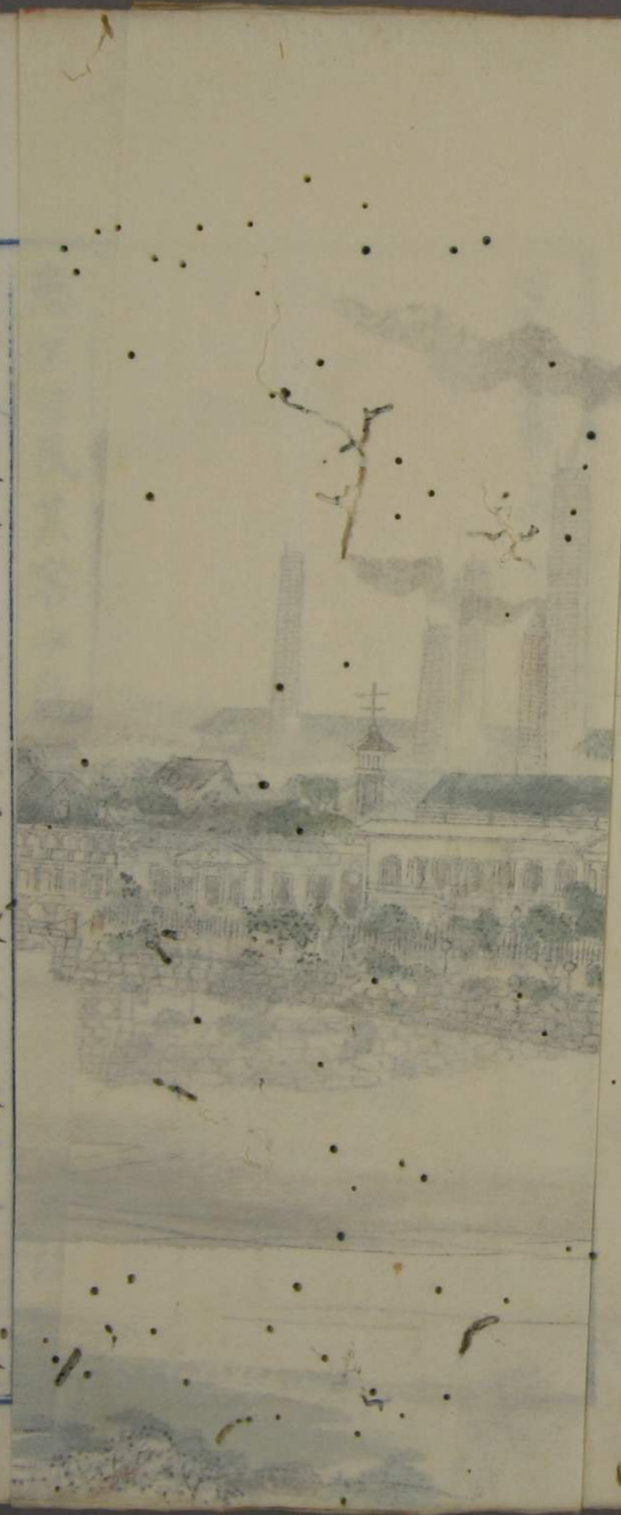
式ヲ以テ別冊ヲ以テ上申ス

安政元年十月十六日　造幣寮創業紀

六正十一辛四月
大隈侯爵邸寄贈

皇國大阪造幣寮創業記

舊貨ヲ改鑄セントスル地ヲ浪華ノ東隅ニトシ今
ノ造幣寮ヲ創建ス物情稍収リ民始テ雲霓ノ望
ヲナセリ爾來鎔鑄スルヿ幾千萬益其工業ヲ



大阪造幣寮之圖

夫貨幣ハ天下一日モ欠ク可カラサル要品ニシテ以テ諸物ヲ交換シ有ヲ以テ無ニ通ス之レシ大ニ之ヲ用ヒ則冨國強兵之レヲ小ニシテハ則日用生計皆之レニ由ラサルハナシ然レトモ其品質純正ナラス其製作精密ナラサルトキハ其弊亦隨テ生ス茲ニ戊辰騒擾ノ際ニ當ツテ大ニ贋造ノ患アリ民其害ヲ受ル者尠カラス　廷議速ヲ舊貨ヲ改鑄セントス地ヲ浪華ノ東隅ニトシ今ノ造幣寮ヲ創建ス物情稍収リ民始テ雲霓ノ望ミヲナセリ爾來鎔鑄スル幾千萬益其工業ヲ

大ニシ今日ノ如キ新貨ノ行布スル殆ト海内ニ
普ク行ハレントス然リ而テ物價漸々均ヲ得貿易
頗ル便ヲ爲ス是ニ於テカ民各其業ニ安ス蓋本
朝未曾有ノ一大盛事ニシテ而富強ノ功亦茲ニ
可キナリ前大藏大輔井上馨曾テ當寮傳記ノ見
ル可キナキヲ憂ヒ命シテ其事蹟ヲ蒐集セシム
稿成リ梓ニ付ス此篇纔ニ當寮創業ノ概目ヲ掲
ケ建築保寮ノ顛末ヲ記シ附スルニ各局事務ノ
畧則ヲ以テス其間事ノ憑據スヘキナキ者ハ
ヒヲ他ノ簿冊ニ搜リ或ハ曾テ此寮ニ從事スル
者ニ謀ル固ヨリ遺漏誤聞ノ憂ヒナキ能ハス
然レトモ他日國運開明ノ秋ニ至リ其進歩ノ
既ニ是ニ基スルヲ徵シ併當時諸彦ノ王事
ニ勤勞スルヲ些ニサラサルヲ見ルニ足ラン歟

明治六年癸酉八月　造幣寮

明治元年戊辰春　廷議通用貨幣ノ價位ヲ定メ
其適度ヲ得ル　シメントス大垣藩久世喜弘（治作）
ル者嘗テ其學ニ從事スルヲ以テ之ヲ西京ニ徵
ス時ニ中御門大納言經之會計事務督タリ越前
宰相慶永内國事務輔タリ岩倉侍從具視同ク權
官タリ肥前前中將齊正ト相與ニ謀リ三月七日
喜弘ヲ會計局ニ召見シ命スルニ通用貨幣ヲ分
析シ其精粗良否ヲ檢査シテ價格ヲ較定スヘキ
コトヲ以テス喜弘乃チ建議シテ曰ク金銀ヲ比
較セントスルニ獨リ我國ノ貨幣ノミヲ分析ス

ルニ未タ其精密ヲ極ムト謂フ可カラス願クハ
各國貨幣ヲ并セテ之ヲ分析シ彼我奬較終ル後
チ始テ其正ヲ得ヘシト　廷議其言ヲ然リトス
而シテ事外國ニ係ルヲ以テ喜弘ヲシテ外國事
務判事寺島宗則陶藏ニ大阪ニ就テ各國ノ貨幣ヲ
購求セシコトヲ謀ラシム是日福井藩村田口口
理右衛門亦貨幣取調方ノ命ヲ奉ス粤ニ二人大阪
ニ抵リ皆ヲ宗則ニ傳フ宗則乃チ其同官岩下方
平左次右衛門ヲシテ兵庫縣知事伊東傳文俊助ニ謀ラシ
ム二人亦之レニ赴ク傳文之レヲ神戸兵庫ノ商

賈或ハ在港ノ亜人ニ需ノ數日ヲ經外國貨幣五
十種許リヲ得タリ喜弘等乃チ西京ニ反命ス
四月上旬西京舊金座ニ於テ假リニ其場ヲ設ケ
内外ノ貨幣ヲ分析シテ其品位量目價格比
較ノ差等ヲ計算シ金銀試驗表ヲ作リ分析セシ
所ノ金屬ヲ併セテ上呈ス是ニ於テ政府益皇
國貨幣ノ其度ニ適セサルヲ知テ其試驗表ヲ上
梓シ世ニ頒布スルヲト左ノ如シ

金銀量目比較

慶長金（百両ニ付目方小判二分）　四百七十六匁（百両ニ付此通ヲ九百〇五匁ニ一分二朱換）

武蔵判

乾字金　二百五十匁　四百七十五両二分　右同断

元禄金（小判二一朱分判）　四百七十六匁　六百三十五両三朱

享保金（小判一分）　四百七十六匁　九百三十両一分二朱

古文金（小二分判）　三百五十匁　五百二十八両二分二朱

真字二分判　三百五十匁　四百六十両

文政金（小判一分）　三百五十匁　右同断

一朱金　六百匁　二百二十七両一分三朱

草字二分判　三百五十匁　四百四両二分

古二朱金　同　三百六十両三朱

五両判　百八十匁　三百四十二両一分二朱

保字（小判一分判）　三百匁　三百九十六両二分一朱

正字判（同上）　二百四十匁　三百十七両一分

安政二分判　三百匁　百六十一両三朱

元禄大判（一枚二付目方）　四十四匁一分　六十一両一分三朱

享保大判　同　七十八両一分

慶長大判　同　右同断

新大判　三十一匁　二十六両二分一朱

夫レ貨幣ノ用ハ獨リ我国ノ流通ヲ便ニスルノミナラス将来外国貿易ノ上ニ関渉スヘキヲ以テ

宜ク彼歐米諸国ノ方法ト其国慣行ノ其ノトヲ
斟酌シ舊幣ヲ改メ精良ノ新幣ヲ製セサル可カ
ラス是ニ於テ西式ニ倣ヒ器械ヲ以テ鑄造スル
コトヲ決議シテ之ヲ會計掛リ三岡公正（八郎）ニ命ス公正乃チ宗則及ヒ其同官立代友厚（才助）
（利也）ラシテ英商ガラバ氏ニ約セシメ價金六萬圓ヲ
以テ香港ニ在ル所ノ英国造幣器械ヲ購求セシ
ト欲ス止野景範（敬輔）ラシテ香港ニ航セシム蓋其
事ヲ管理セシメンカ為ノ也
六月會計局ヲ近衛家ノ舊邸ニ移シ改メテ官ト

稱ス萬里小路中納言博房ヲ知官事ニ任シ池邉
口口（藤左衛門）ヲ判事トナス而シテ三器四位ヲシテ
參與ヲ以テ其事ヲ管知セシム四位ハ即チ公正
ナリ是ニ於テ貨幣司ヲ官中ニ列シ更ニ大阪ニ
於テ一局ヲ創建シ即今亘貫ヲ補ハン為メニ且
ラタ貳分判壹分銀ヲ鑄造ス既ニシテ十月下旬
香港ヨリ造幣器械來リ因テ造幣場ヲ大阪ニ經
營センカ為ニ中之島ノ地ヲ相ス議未タ決セサ
ルニ景範香港ヨリ書ヲ寄セテ曰造幣場ヲ撰ハ
シト欲スレハ必ス水利ニ就ク可シ是ニ於テ天

滿川崎舊幕府米廩ノ故地ヲト定シ営繕司材木
番清水礒吉ヲシテ建築ニ從事シ天保山海口ヨ
リ器械ヲ上搬セシニ是時カラバ氏告ケテ曰此
舩中ニ英人ブレッチェット及ホイドノ二名アリ曩
ニ香港ニ在テ器械ヲ運轉シ且之ヲ包裹セシ者
ナリ故ニ彼等ヲシテ此包ヲ開カシメハ紛乱ノ
憂ナカラン歟トモ此二名ハ尋常ノ鍛冶ニシテ
建築ノ術ニ暗シ幸ヒ英人ウヲトルスナル者長
崎ニ在リ彼レ其術ニ長セリ舉ケテ以テ此建築
ヲ司ラシメハ其成功速カナラントト 廷議之ヲ

嘉シ其言ノ如クセリ
明治二年己巳正月三冨四位喜弘口口ヲシテ新
貨ノ模本ヲ作ラシム二氏直ニ金銀銅貨幣各種
ヲ試造シテ上京ス時ニ三冨四位ハ既ニ会計掛
ヲ免セラレ長崎府判事太隈重信参與ニ除セラ
レ會計掛ニ任ス二月五日貨幣司ヲ廢セラレ更
ニ造幣局ヲ太政官中ニ置カレ會計官權判事甲
斐口口九郎ヲ以テ造幣局知事トナシ三等官ニ元
ラル是時ニ當テ尤ノ金アリ

會計官

今般貨幣新造被　仰出候ニ付大政官中新ニ
造幣局御取建ニ相成候依之是迄之貨幣司御
廃止知事以下諸官員被免候様被　仰出候事
但是迄貨幣司ニ於テ取扱来候金銀総テ決
算致シ出納司ニ相納可申事

造幣局

従来旧幕府ニ於テ貨幣屢改鑄致候處兎角姦
吏詐譎ヲ逞シ候ヨリ其度毎ニ粗悪ニ成行物
價沸騰之基ヲ開候ノミナラス大ニ害人心敗
風俗候事ニ候今般新貨幣鑄造被　仰出候ニ
付テハ　王政御一新公平至正之御趣意ヲ奉
戴シ深ク従前奸吏之悪弊ヲ戒メ精金ヲ以テ
鑄立銖銖ニ當遂ニ人心風俗ヲモ敦厚ニ帰シ
候様篤ク心掛可申旨　御沙汰候事

同局

金銀銅幣雛形之通全量無相違鑄造被　仰付
候事

二月十二日又命ヲ下シテ東京ノ旧金銀座ヲ廃
セラル

今般新貨幣鑄造被　仰付候ニ付大政官中新

ニ造幣局御取建ニ相成候依之是迄之貨幣司
御廢止被　仰出候ニ付放東京モ金銀全被廢
止候旨被　仰出候事

一　新金御決議ニ付而ハ以来　朝廷ヨリ正金
御遣出シ無之候放東京モ可為同様被　仰出
候事

三月三日會計官大隈參與久世判事ヲ京ス蓋シ曩ニ銖銅至當ノ命有シカ其便ナラサルヲ以テ之ヲ議セント欲シ其明日議事院ニ於テ之ヲ論ス議官乃チ其説ヲ派トシテ曰ク我国

朱分両ヲ以テ慣用スル既ニ久シ今遽カニ之ヲ改メハ恐クハ民心ヲ擾サン旧制ニ仍ルノ便ナルニハ若カスト二人答テ曰ク我国両ヲ以價名ヲ定ルハ慶長小判ニ始マリ其原因ヲ推究スルニ支那ニ於テ重量四匁余ノ者ヲ一両トス慶長小判即チ其量ニ適ス是両名ノ由テ生スル所ナリ其後幕吏元録金ヲ造リ其金分ヲ減シ銀分ヲ多クス天下之ヲ派トス因テ乾字金ヲ造リ慶長金ノ品位ニ復ス然レトモ其量ノ軽キヲ以テ物議益沸騰殆ト擾亂ヲ釀サントスルニ至ル

故ニ享保ニ迨テ又之ヲ改鑄シテ品位重量共全
ク慶長ノ旧ニ復セリ其後元文金文政金ニ至リ
其量大ニ減シ三匁五分トナリ天保金ハ又五分
ヲ減シテ三匁トナシ正字金ハ又五分ヲ減シテ
二匁五分トナス今時ノ小判ニ至テハ八分八厘
ニ逓減ス然トモ其名ハ猶舊ニ依リ称スルニ両
ヲ以テス是其實ヲ失スルノ大ナル者ト謂フヘ
シ且一分ノ名ハ両ヲ四分ノ一ニシ朱ハ分ヲ四
分ノ一ニスルノ義ニシテ十六銖即チ一両トス
朱ハ銖ヲ畧書スルナリ然ラハ銖銭ハ在昔量目

ノ名ニ出テ決テ價位ノ数名ニ非ルヿ知ルヘシ何
ソ之ヲ後来ニ準用スルノ理アラン夫数ハ十進一
位萬国皆同シ故ニ百錢ヲ以テ一元トシ其一錢
十分ノ一ヲ以テ一厘トセハ計筭上ニ於テ或ハ
三匁七分五厘或ハ十一匁二分五厘等ノ煩ヒ無
ク数歳ヲ出テスシテ民間換用ノ便却テ今日ニ
倍セントス是ニ於テ衆皆其言ヲ然リトシ従前ノ
價名ヲ廢シ十進一位ヲ以テ新貨ノ價位ヲ定ム
ヘシト決議セリ是乃チ今ノ新貨幣ヲ鑄造スル
起原ナリ是月會計官權判事井田讓五藏知事心得

ヲ命セラレ出納司判事山口忠良秋七郎営繕司判事ニ轉シ兼テ本局建築ノ事ヲ管理ス

今春

天王再御東巡百官供奉大政官御引移リアリ賞ニ三月七日西京御發輦ナリ

四月大隈参與東京ニ赴ク幾ハ[illegible]魚ク村田口口理石衛門ガ疾ヲ以テ職ヲ辭ス此月大隈参與東京旧金座人伊藤僖田谷敬三旧銀座人岡西口口政太郎誉田口口啓之助ヲ召シ貨幣取調方ヲ命シ新旧貨幣ノ品位并量目等ヲ比例較筭セシム

五月但馬国生野縣下ノ民騒擾ヲナス井田知事乃チ鎮撫ノ命ヲ奉シテ其地ニ赴キ遂ニ其縣知事ニ轉任ス是月會計官判事井上馨造幣局知事ニ任セラル

六月大隈参與久世喜弘ヲ東京ニ召ス廿五日大隈参與井上知事伊藤會計判事傅文中井外国判事弘藏弘藏ト横濱ニ會議シテ東洋銀行代理ロベルトソン氏ニ造幣ノ事ヲ謀ル其言ニ曰ク今般我政府ニ於テ漸次増益スル国用ニ供シ且外国貿易ヲ盛大ナラシメンカ為メ更ニ新

種ノ貨幣ヲ発行シ在来ノ貨幣ニ増補セントヲ決定セリ

新ニ發行セントスル貨幣ノ本位トナル者ハ其量目「ロ」「イ」斤四百十六「グレイン」ヨリ減ズルコト無ク其質ハ十分ノ九ノ銀貨ナルヘシ故ニ其銀貨墨是可「トルラル」品位タルヘシ此本位ノ銀貨ヲ分割シテ更ニ小銀貨ヲモ鑄造スヘシ其小貨ノ定量亦タ精細ニ確定セサレ𪜈概子左ノ如クナルヘシ

一 五十セント貨 「ロ」「イ」斤ニ百〇八「グレイン」ヨリ減セス 銀貨十分ノ八

二十五セント貨 同百「グレイン」ヨリ減セス 同

十セント貨 同四十二「グレイン」ヨリ減セス 同

五セント貨 同二十「グレイン」ヨリ減セス 同

是等ノ小貨幣ハ便利ノ用ニ供セントスル者ニシテ唯些少ノ金額ヲ拂フ為メニノミ用フ又金貨幣ヲモ鑄造スヘシ其本位ハ銀貨ノ十個五個或ハ二個半ニ當ル者ニシテ亦唯交通便利ノ為メニ用フベシ

更ニ又本位銀貨ノ百分一及千分一ニ當ル銅貨ヲモ鑄造スヘシ

此貨幣鑄造ノ事ハ来春歐羅巴士官我政府ノ
為ニ来航スベキヲ以テ其至ルヲ待テ猶能細
密ニ決定スヘシ其士官ハ造幣寮ニ勤務シ其
主タル職任ハ我政府ニテ決定セシ量目性質
ニ據リ貨幣ヲ鑄造スルニ在リ尚其詳密ノ事
件ハ造幣寮開展ノ以前ニ於テ布告スヘシ且
充分ノ布告無ケレハ之ヲ変易スヘカラス
此製造ニ係ル所ノ處置ニ於テハ歐羅巴各国
ト均シク精密ナルヲ證センコトヲ我政府ニ
於テ希望セリ

千八百六十六年第六月ノ條約ニ隨ヒ鑄造費
用ノ爲ニ我政府ニ受取ルヘキ部割ヲ貴君ト
商議センコトヲ欲ス但シ我政府ニ於テハ莫
大ノ費用ヲ受ヘキコトヲ慮リ先ツ其始ノハ
鑄造ノ部割ヲ三分ヨリ減セサル様定メント
ス且貨幣ハ地金ヲ領取セシ後三十日ヲ出テ
スシテ本寮ヨリ之ヲ交付スヘシ
地金及他国ノ貨幣又ハ方今通用或ハ旧来存
在ノ日本貨幣ヲ持シテ之ヲ我新貨幣ニ交換
セントスル者ハ何人ヲ論セス之ヲ本寮ニ

出シ其金銀ノ質分ヲ確證シタル金額内ヨリ
鑄造費用ヲ引去リ其残額ニ適當スル分ノ新
貨幣ヲ替リトシテ受取ルヘシ然トモ政府ニ
於テハ空名ヲ以テ價ヒヲ定メタル舊貨幣ヲ
新貨幣ニ交換スルコトヲ肯シス可カラス
我政府ノ意思ニ於テハ新貨ノ流行ヲシテ愈
疑シキヲ得セシムルニ注意シ国内ノ景況ニ
由テ漸次ニ旧貨ヲ除キ去ントスル所ナリ
然トモ舊貨幣ヲ除カンカ爲敢テ急劇ナル處
置ヲ施サヽルコトヲ決定シ旧貨幣ノ日本人

ニ要用ナル間ハ通用セシムヘシ且外国人ヨ
リ從前ノ如ク收稅シ又ハ本位ノ新貨幣ヲ以
テ稅金拂方ニ充ルモ亦妨ケナシ但稅銀ニ用
フル時ハ墨是哥「ドルラル」同等ノ價ヲ以テ之ヲ
政府ニ受取ルヘシ
議既ニ協ヘリ因テ其同社ニ托シ英国士官ヲ造
幣寮ニ雇入ルヘキノ約條ヲ定ム
第一日本政府ニテ金銀坐ニ使用スル外国人
ヲ傭入ルコトヲ治定セリ
第二右外国人ノ所爲ヲ管轄スル爲メ日本政

府ニテ「パンク」ニ命シ右外国人ノ工業ヲ
監察セシメ且日本政府ニ對シ其旨等ヲ
引受ヘキ「エゼント」ニ任スルコトヲ希望ス
第三「パンク」ニテ右外国人ノ職ヲ免シ且要用
ナル時ハ他ノ外国人ヲ其職ニ命スル權
アルヘシ
第四「パンク」及其配下ニ備ハレル外国人ニ
報知無ク金銀坐ヨリ貨幣ヲ出シ又ハ鑄造
スヘカラス
第五若シ外ニ枝葉ノ金銀坐ヲ開ク時ハ「パンク」
ニテ右同様其外国人ヲモ管轄スヘシ
第六約定期限ハ三ケ年ナレトモ政府ノ便宜
ニ因リ四五年モ續クコトアルヘシ且「パンク」
ニ渡スヘキ謝金割合左ノ如シ

一ケ年之拂方	
初年	二萬五千元
二年	二萬元
三年	一萬五千元
約定連續スル時ハ	
四年	一萬元

五年　同

外ニ鑄造スル貨幣高ノ千分ノ一ヲ世話料トシテ拂フヘシ「パンク」ノ為ニ外国人居留地内ニ日本政府ノ么費ニテ相當ノ建物ヲ造営スヘシ「パンク」ヨリ右么費ノ一割ヲ家租トシテ納メ其修復内部ハ「パンク」ニテ引受ヘシ

但外部ノ修復ハ日本政府ノ引受タルヘシ

第七此約條ハ西洋千八百七十年二月一日即我明治三年庚午正月元日ヨリ取行フヘシ

此約條既ニ成ル具詳ナルモノハ「ロベルトソン」ノ其千八百六十九年第十二月廿九日（我明治二年十一月廿八日）我国政府ト東洋銀行トノ約定覚書（即チ「ロベルトソン」ノ手記セル者ナリ）及七十年以来造幣ノ事ニ由テ協議討論スル所ノ往復書類ヲ蒐集シ公憑簿記ト題セシ者記録寮ニ藏スルヲ以テ爰ニ掲ケス是時ニ當テ井上知事横濱ヲ發シテ大阪ニ到リ建築ノ事ヲ幹理ス

比年諸国贋造ノ悪金大ニ世ニ行ハルヽヲ以テ是歳二月令ヲ天下ニ布ケルコト左ノ如シ

近来悪金流布之趣相聞候ニ付為取締東京横濱ニ於テ既ニ御取建ニ相成候通京都大阪兵庫長崎等ニ於テ貨幣改所取建候様被仰出候事

政府ニ於テ悪金流通ヲ防カン為メ斯ク注意セラレタルトモ其害漸ク外国商賈ニ延及シ五六月ノ交ニ至テハ其弊益甚シク米獨伊及各国公使等競ヒ迫テ之ヲ訴フニ至ル是ニ於テ七月上旬三條右大臣岩倉議定澤外国官知事大隈會計副知事伊藤會計判事馬渡外国判事及久世造幣

判事各国公使ニ高輪應接所ニ會同シテ反覆辯論ノ後遂ニ三日以後二日ノ間ヲ以テ横濱在留各国商賈所有ノ贋金ヲ交換スヘキノ約定成ル是ニ於テ大隈會計副知事乃チ久世造幣判事ニ命シテ善ク其正否ヲ鑒定スル者ヲ東京府下ニ募ラシメ数日ニシテ始メテ其事ヲ了ス

是時ニ當リ會計官ヲ廢シ大藏省ヲ置カル造幣局ヲ改メテ寮トナシ大藏省ニ屬シ知事ヲハ頭ト称シ判事ヲハ助ト称ス以下官等皆差アリ時ニ新貨幣ノ品量大槩決定スルヲ以テ更ニ太小

貨幣ノ両面ニ刻スヘキ模様ノ議アリ彫刻師加納夏雄ヲ召シテ其見本ヲ造ラシメ同人ヲ造幣寮附属ニ命セラレ、タリハ月銀貨一圓銅貨一錢及一厘三種ノ見本成レリ圖ハ夏雄ノ自ラ作ル トコロニシテ文字ハ石井潭香ノ書ナリ十月極印彫刻ノタメ夏雄大阪ニ至ル十一月四日井上造幣頭大藏大丞ニ轉任シ山口藩井上勝殖吉之ニ代リ鑛山頭ヲ兼ヌ是夜第八号建築所ノ鍛冶場ヨリ火ヲ失シ屋宇及木材等悉ク灰燼トナリ延テ二庫ノ内一庫ヲ焼失シ庫中在ル所ノ造幣器

械モ亦大半烏有ニ属ス抑 政府カヲ造幣ノ事ニ盡スコト茲ニ二年其建築殆ト成功ニ垂シトシテ此災厄ニ遇フ天下慨嘆セサル者ナシ是ニ於テ又器械再購ノ事ヲウラトル[ス]氏ニ謀リ之ヲ英国ニ囑ス十二月初旬ニ至リ香港ノ報知ヲ得タリ曰ク向キニウラトル[ス]氏ヨリ英国ニ囑セシ鋏柱四十八條ヲ載航スル船香港ノ南某島ノ海中ニ沈没セリト衆皆大ニ驚テ香港ヨリハ電信ヲ以テ其事ヲ英国ニ報知ス英国之ヲ聞テ我政府ノ間化ヲ支障セン事トヲ憂ヒ他ノ工事

ヲ廢シ大ニ工師ヲ募リ更ニ鋏柱ヲ製造セシム
ルコト甚急ナリ而テ我国未タ之ヲ知ラサルニ因テ
急ニ香港ニ在ル所ノ旧造幣寮ノ鋏柱ヲ購ハン
ト欲シ其月下旬「ウラトルス」氏ヲシテ彼地ニ赴カ
シム既ニシテ同氏購フ所ノ鉄柱来着スルヲ以
テ之ヲ建築ノ用ニ供セリ偶英国ニテ製造スル
所ノ新柱モ亦既ニ功ヲ竣テ大阪ニ輸送シ来レ
トモ終ニ用フル所ナクシテ止ム是亦惜ム可キ
ナリ嗚呼此造幣寮ノ建築ニ於ケルヤ或ハ火災
ニ罹リ或ハ水害ニ遭フ其困阨顛踣内外挙テ目

撃セシ所ニシテ其功始メテ緒ニ就クコトヲ得
タルハ實ニ明治三年三月ナリ是月余有テ造幣
寮ニ属スル地金局及外国士官等ノ居宅ヲ増築
ス是東洋銀行ノ約定ニ従ヒ倫敦ヨリ造幣寮首
長「メジヨール、キンドル」氏及分析師「ツーク」氏鎔
解師「アツトキン」氏大阪ニ来着セルヲ以テナリ
因テ器械ヲ寮中ニ排置スルコトヲ叙ム八月初
旬造幣頭井上勝民部權大丞ニ轉任シ大藏大丞
井上馨造幣頭ノ兼ヲ此時ニ至テ建築ノ功畧落成
ニ属セリ乃チ「ウラトルス」氏ヲ褒スルニ成功満

足ノ證書ヲ以テシ建築ノ事務ヲ免シテ東京ニ赴カシメントル氏ヲ以テ之ニ代ヘ兼テ工作ノ事ヲ管知セシム

十一月中旬寮中器械排置完了ル因テ蒸氣機関運轉ノ試業ヲ發叙ス時ニ外務權大丞馬渡俊邁造幣權頭ニ任セラル既ニシテ造幣頭井上馨大藏少輔ニ轉任シ馬渡權頭代テ造幣頭トナリ通商權正遠藤庸謹助ヲ以テ造幣權頭ニ任ス十二月十八日大藏少輔井上馨造幣助久世喜弘ト共ニ東京ニ赴ク亦二日大隈參議大藏少丞渋澤栄

一等ニ大藏省ニ會シ造幣寮開業ノ事ヲ議ス議畢テ亦五日横濱ニ赴キ又之ヲ東洋銀行ニ謀リ明年二月十五日良辰タルヲ以テ開業ノ期ト定ム

明治四年辛未正月六日造幣助久世喜弘大阪ニ帰ル是開業ノ議決スルヲ以テ其事ヲ整理センカ爲ナリ是月政府令ヲ国内ニ下スコト左ノ如シ

府藩縣

来ル二月十五日ヨリ大阪表造幣寮御開相成尤同日ヨリ日数九十日之間即五月十五日迄

ハ御用貨幣鑄造ノミニテ内外人民所持ノ地
金吹替ハ不致候右日限後ハ別紙造幣規則之
通リ都テ改鑄可致遣且又新貨幣ノ儀者五月
十六日ヨリ令発弘候條當分在来ノ貨幣取交
通用可致候事
右之趣各管轄内不洩様早々布令可致候事
辛未正月　太政官
正月廿二日大藏省ヨリ左ノ條款ヲ政府ニ具状
シテ許可ヲ得タリ
庚二月十五日大阪造幣寮御開ニ付左之通被
御付度候事
一寮中機械場付之御場所故長袖ニテハ甚以懸
念ニ付御出張高官之御方ヲ始凡テ非常服御
用有之度候事
一當日御出張高官之御方蒸氣ノ捻御開被成度
候事
一當日ハ各国公使并カーゲル等ハ前以テ御案
内通達有之度候事
但此儀ハ當省ニ於テ夫々取計可申候
一當日花火打揚被　仰付度候事

一於應接場公使ト出張官員ヘ西洋料理被下度
候事

一各国公使ヘ本位定位ノ貨幣一揃ツヽ被下度
候事

辛未正月廿二日　大蔵省

雑官御中

二月ニ至リ政府又令ヲ下シテ曰ク
皇国往古ヨリ他邦貿易ノ事少ナク貨幣ノ制
度亦タ精密ナラス其品類各種ニシテ其價位
モ亦一定セス今其概畧ヲ挙ニハ慶長金ア
リ亨保金アリ元字金アリ大小判金アリ一分
金アリ貳分金アリ貳朱金アリ壱分銀アリ一
朱銀アリ當百銭アリ大小数種ノ銅銭アリ其
他一時通用ノ貨幣ハ枚挙ニ遑アラス且ツキ
ハ一国一郡限リノ貨幣アリテ今ニ至ルマテ
僅ニ其地ニテ通用スルニ至ルカク其品類區
々ニシテ方圓大小其價ヲ異ニシ混合雑駁其
質ヲ同クセス抑貨幣ハ眼目タル量目ト性合
トニ至リテハ殆ト辨知スヘカラス新舊互ニ
雑用シ品位自ラ低下シ其間或ハ贋造ノ弊ア

リ元竟ニ今日ノ甚シキニ馴致セリ偶良性ノ
貨幣ハ徒ラニ富家庫中ノ寶物トナリ或ハ外
国ヘ輸出セシモ亦少カラス遂ニ諸品換用
ノ能力ヲ失ヒ日用便利ノ道ヲ塞キ流通ノ公
益殆ト絶ントスルニ至ル實ニ是天下一般ノ
窮厄ニシテ萬民ノ痛心更ニ島ヨリ大ナル者
ナシ今其緣由ヲ尋繹スルニ金ク一定ノ價位
無クシテ善悪良否ヲ雜用スルノ舊弊ヨリ生
スルコトナリ方今貿易ノ道弥盛ンナル時ニ
當リテ旧弊ヲ改メ精良ノ新製ヲ設ケスンハ

何ヲ以テ流通ノ道ヲ開キ富国ノ基ヲ立シヤ
是政府ノ責任ニシテ然モ燃眉ノ急務タリ故
ニ去ル明治元戊辰ノ年ヨリ早ク其功ヲ起シ
莫大ノ經費ヲ厭ハス大阪ニ於テ新ニ造幣寮
ヲ建置シ壯大ナル器械ヲ備ヘ廣ク宇内各國
貨幣ノ真理ヲ察知シ金銀ノ性質量目ヨリ割
合ノ差等鑄造ノ方法ニ至ルマテ詳カニ普通
ノ制ヲ比較商量シ以テ精密ノ通用貨幣ヲ鑄
造シ在来ノ貨幣ニ更ヘテ一般ノ流通ヲ資ケ
シトスルノ都合ヲ謀リ現今開寮ノ期ニ臨ム

リサルトモ前ニ言ヘル如ク區々各種ノ貨幣
多ケレハ現場諸品ノ價直ヲ錯乱シ万民ノ迷
惑ナルコトナレハ漸ク新舊ヲ交換シテ在来
ノ通寶ハ悉ク改鑄シ都テ品類ヲ一定セシメ
シトノ御趣意ナリ且貨幣ハ天下萬民ノ通寶
タル主旨ニ基キ地金ヲ持參シテ引換ヲ望ム
者ハ速カニ鑄改シテ通用貨幣ヲ渡スヘシ
サレハ今人々古来ノ舊習ヲ襲ヒ重代ノ宝物
トセル古金銀ノ類モ数年ナラスシテ全ク地
金様ノモノトナルヘケレハ早々交換流通

シテ貨幣ノ真理ヲ失ハサル様致スヘシ斯ク
新ニ造幣寮ヲ設ケシモ偏ニ萬民ノ保護ニ
任スル心ノ職分ヲ盡スノ外他アルニ非レハ万
民モ亦能ク此理ヲ會得シ一個ノ私欲ニ拘泥
セス各其務ヲ勉勵シテ天賦ノ職ヲ盡スヘシ
仍テ今爰ニ其次第ヲ掲示シ并セテ新貨幣ノ
真形ヲ摸シ其量目品位表ヲ添ヘ且地金引換
ノ規則等詳細ニ附録シ普ク国内ニ頒布論告
スル者也

辛未二月

太政官

各国公使ヨリハ外務省ヨリ之ヲ傳達セリ但シ新
貨幣例目品位量目表通用制限造幣規則等ハ刊行
ノ新貨條例ニ掲載スル以ヲ茲ニ贅セス遂ニ
二月十五日期ノ如ク造幣寮開業ノ式アリ第十
一字四十五分三條右大臣已下ノ諸官員皆非常
服ヲ着ケ寮ノ東門ヨリ入リ各其班位ニ列ス各
国公使等モ亦同ク来集ス第十二字右大臣開寮
ノ告文ヲ唱フ其詞ニ曰ク
今般我政府ニ於テ漸次増益スル国用ニ供補
シ且外国貿易ヲ盛大ナラシメンコトヲ欲シ

弘ク各国通貨ノ制ヲ斟酌シ新ニ純正ノ貨幣
ヲ製作セシカ為メ一昨年来造幣寮建築ノ功
ヲ起シ東洋銀行「キシドル」氏并「ウラトル」氏
ノ盡力ニ依リ其功正ニ落成ニ至リシニヨリ
今マ茲ニ各国公使其他諸君ノ親臨ヲ得ルハ
我政府ニ於テ深ク満悦スル所ナリ是乃チ後
来貿易盛大ノ使ヲ賚クルノ確證ニシテ永ク
我臣民ト各国臣民ト其懇親ヲ篤クセンコト
ヲ希望スル所也因テ恭ク此詞ヲ述ヘ以テ各
貴臨ノ辱キヲ謝ス

是時国旗ヲ寮ノ中庭ニ掲ケ城上ヨリ帝旗ノ祝
炮ヲ發ス右大臣乃チ親ラ發機ヲ捩シ器械ノ運
動ヲ起シ諸官衆賓ト相共ニ製造ノ實業ヲ巡覧
シ畢テ然後席ヲ秤量局ニ設ケ各酒饌ノ饗宴ニ
就ク是ニ於テ各国公使及省長ヨリ[illegible]氏開寮
ノ祝詞ヲ述ル左ノ如シ

英公使パークス氏ノ祝詞

右大臣其他出席ノ日本亟相閣下及諸官吏ニ
陳述ス

右大臣閣下各国主君ノ健康ヲ祝セラル因テ
各国同列ノ為ニ名代トシテ予之ヲ謝ス其
祝詞ノ深切ナルノミナラス平常親睦ノ確證
タル者ハ此饗宴ニ於テ顕ル予朝廷ニ於テ
造幣有益ノ業ヲ起セシ深慮ヲ嘉シ且此度成
功ニ至ルヲ祝ス大政維新ノ後形勢未タ平穩
ナラサル時ニ方リ京都ヲ去ル遠ク加フルニ
沈没焼失之窘厄ニ遭フト雖僅ニ二年ニシテ
成功ヲ遂ルニ至ルハ全ク廟堂ノ焦労ト我国
嘱托ヲ受ル諸ノ材技勉励ノ實功顕スル所
ニシテ挙国ノ能ク知ル所也

朝廷ニ於テ此洪益ノ業ヲ起スカ為ニ萬国ノ
秀才ヲ挙用シ彌谷国交情ノ厚キヲ見レハ日
本政道ノ日進期シテ待ヘキナリ又此新幣金
幣ノ純正練巧ヲ見レハ　皇国ノ懿徳金幣
ト並行ハルヽヲ知ヘキナリ且日本及近国ニ
普ク流布セハ
天子ノ徽章ヲ見テ億兆狐疑ナリ信用スルヤ
必セリ冀ハハ此新貨ノ美音ノ如ク　皇国
ノ名聲廣ク世ニ響動センコトヲ希望スルノ
ミ

佛国公使ウートレー氏祝詞

今日ハ右大臣閣下公使ノ健康ヲ祝サレシ其
情意ヲ謝シ此序ヲ以テ一両語ヲ述ルコトア
リ予両三日前ナリシカ航海貿易ノ大益ヲ起
スヘキ修船場ノ開筵ニ列シ今日又斯ノ如キ
美麗ナル建築ノ開業ヲ一見ス此建築タルヤ
国内富強ノ諸業ニ関係シ日本国将来国力ヲ
盛ニスルニ関係ス結約国ノ者トシテハ此大
改造幣寮ノ繁栄及国内金銀融通ノ道大ニ開
クルヽノ基タルヘキヲ祈願トスハ則政府ニ於

テ目的スル所ノ利益ト貿易交際上ノ益トニ
アリ此目的ヲ以テ永ク事ヲ行ハンニ於テハ
貿易諸国ハ勿論世界万国ノ保護及印可ヲ得
ンコト毫モ疑ヒ無カルヘシ
有名ナル外国人数名此席ニ在リ中ニハ此間
寮ノ式ニ列セシカ為ニ遠方ヨリ来ルモアレ
ハ是則貴国ノ勢焔ト謂テ可ナリ且日本通貨
ノ改造ハ我輩総テニ関渉シ其緊要タルコト
ヲ證明スルニ足レリ諸君予ト共ニ
天皇陛下ノ諸貴官ヲ祝シ盃ヲ傾ケンコトヲ

望ム首長キンドル其祝詞ニ答テ曰ク
各国公使及諸賓已ニ此築屋ノ成功ヲ親見セ
シニ於テハ此寮ノ善美ト　皇国ノ開化ト
予今之ヲ述ルニ及ハス他日　皇国三千三
百餘万ノ人民新貨ノ徳澤ニ浴ハ、斯寮ノ成
功疑ヒ無カルヘシ予此大業ヲ管理スルヲ助
ケラレシ両貴人ノ此高會ニ列セサルハ予カ深
ク惜ム所ナリ予カ謂フ所ノ両貴人ハ乃チ井
上彌吉君及井上聞多君ナリ予彌吉君ノ人ト
為リヲ観ルニ大量秀才其為ス所宜キヲ得其

務ムル所政府ニ顕ハル聞多君ハ管事ノ大才
アル貴人ナリ而シテ予カ業ヲ助ルコトヲ厭
ハス其功甚多シ予ノ感謝スル所ナリ今時西
人東京政廳ニ在テ公務多端ニシテ出阪ノ暇
無キヲ知レリ又一人ノ秀才有リテ政府ニ挙
用セラルヽハ「ウオトルス氏ナリ斯寮ノ原図
ハ唯単一ノ礎線ノミナリシニ其才カニ由テ
各国ニ均シキ壮大築建ノ功ヲ遂ケシハ實ニ
同氏ノ大功ト謂ヘシ又事情ニ通スル者ハ多
ク人ノ患難ニ屈セス朝ノ如ク造營ヲナセシヲ

深ク賞嘆スヘシ是ニ由テ其聲誉ハ永世不朽
タルコトヲ予默スストモ
朝廷及ヒ皇国人
民挙テ之ヲ知ルヘシ此彌吉君トハ鑛山頭井上勝ヲ謂ヒ聞多君トハ大藏少輔井上馨ヲ謂ヘルナリ
既ニシテ席ヲ應接所ニ移シ煙火ノ投ヲ観ル夜
十二字ニ迨テ會始テ散セリ是日大藏省判任官
ノ大阪ニ在ル者ニモ亦酒饌ヲ賜フ此席ニ列セ
シ官員及公使ノ姓名ヲ左ニ臚列ス
右大臣三條實美　参議大隈重信
少辞多久茂族　少辞長松幹
大史北川泰明　外務卿澤宣嘉

外務大丞 榊原前光
彈正少忠 毛利吉盛
大阪府權大參事 西園寺雪江
大學少博士 石井信義
民部權大丞 吉井正澄
大藏權大丞兼造幣頭 馬渡俊邁
大藏省出仕 立嘉度
同 山田秀典
造幣助 久世喜弘
造幣權助 長谷川為治

彈正尹 九條道孝
大阪府知事 西四辻
大阪府少參事 土肥通夫
大藏卿 伊達宗城
大藏權大丞 岡本義方
大藏少丞 田中光顯
同 吉田清成
造幣權頭 遠藤謹助
造幣權助 谷敬三
同 羽太紀苑

造幣權助 加藤延治
同 矢島庸保
出納權正 小森安治
當藏權正 山口忠良
英公使 ハルリーパークス
米公使 デロング
蘭公使 ハンドルフーフヱン
各國公使附書記官 并岡士等五十七人 内 婦女六人
翌十六日馬渡造幣頭ヲ以テ雇入外国人ニ賜フ所ノ物左ノ如シ
同 丘秀興
監督權正 渡邊弘
出納權正 長谷川方省
通高權正 吹田久則
佛公使 マキシムウートレイ
西班牙公使 ドリケ
英水師提督 ケラ

大和錦二巻
蒔繪手筥　　キンドル

同上　　ウヲトルス

紅白縮緬　二匹ツヽ　　二等官三人　ブツーキ　ルブ　サラカ　イド
蒔繪手筥　一ツヽ

白縮緬　一匹ツヽ　　三等官四人　アルチ　ルフト　ヤキン　ヤチン　子ト
蒔繪手筥　一ツヽ

キンドル等各自書簡ヲ呈シテ之ヲ拜謝ス是日ヨリ三日間大阪府下ノ人民ヲシテ此寮ノ内外ヲ縱觀セシム衆皆其建築ノ壯大美麗ナルヲ目擊シテ富国安民ノ洪基タルヲ賞嘆セサル

造幣寮創業記附録

抑此造幣寮開業ノ後尋ヲ日ノ盛大ニ至ルヲ
稽フルニ明治四年辛未六月十有六日以来内
民ニ造幣ノ為ノ輸送スル諸地金ヲ受
取リ以テ之レヲ新貨ニ鑄造スルヤ蓋シ工業
ノ規則厳粛ニシテ能ク其順序ヲ逐ヒ毫モ
失錯アルナシ況ヤ是歳八月政府大ニ諸官
省各寮司ノ職制ヲ改定シ更ニ事務章程ヲ
立テ頒布アリ乃チ此寮ノ如キモ亦其制定
スル所ニ照準シテ諸局ノ其事務ヲ處分スル

於テハヤ今ヨリ地金ヲ此寮ニ収入セシヨリ
貨幣ヲ鑄造シテ之ヲ内外人民ニ賦與スルニ
至ル迄ノ順序ヲ略述シ従テ地金局其他各
局各課ノ職掌ヲ概示ス

價位未定ノ地金試驗鎔解ヲ要スル
者ノ事

造幣寮精製所ニ於テ製セサル者ヲ云且此篇専
ラ未ノ金塊（地金ト金貨幣ノ事ノミ）貳ニ銀地金ト銀ノ
ノ事ハサルハソノ事務金銀トモニ大体同ジテ少差アルノミナリ
一々銀ノ名称ヲ金ニ併ヘ記シテ却テ繁冗ニ渉ルヨリモ寧ロ是ヲ省キ
唯ソノ異ナル所ノミヲ記スルヲ
モツテ勝レリトスレハナリ

政府或ハ人民ヨリ輸入スルハ（内国人ヨリ地金
ニハ大阪三井組

外国人ハ東洋地金局ニ設ケアル所ノ權衡
銀行ノ添書アリ
モツテ地金主ト鎔金局長或ハ助手ノ視ルトコロ
重量（総テドロイヽヲ正シ（金地金ハ百五十匁以上銀地金ハ二千
ランスヲ用ヒ）以上ニアラザレハコレヲ受取ラサルヲ法
地金主ニ假請取書ヲ與ヘ地金ニハ重量符號
「テンドル」ノ番号ヲ定メテ鎔金局ニ輸シモツテ試驗
鎔解ヲナサシム此際地金主ニ假請取書ヲ與ヘ
ハ地金主ノ姓名住所地金ノ種類重量「テンドル」
番号一々コレヲ計算課ニ報シ地金ヲ鎔金局ニ渡
ニモコレヲ計算課ニ報ス次ニ鎔金局ヨリ試驗鎔解
ナシタル金塊ヲ返輸スルハ更ニ重量符号塊

数ヲ「ヘル」ノ番号品位及碎屑試験片ノ量ヲ
記シタル請取書ヲモッテソノ地金ヲ受取リオセ
造幣頭ヨリ地金主ニ「テンドル」ヲ供ヘシ日ヨリ三日ヲ過
直ニソノ金塊碎屑試験片ヲ鑄貨ノ為メ再ヒ鎔
局ニ輸サシコノ事ヲ計算課ニ報ス

価位未定ノ地金ニシテ試験鎔解ヲ要セサ
レ者ノ事

造幣寮精製所ニ於テ製セシ金塊等總テ善ク精
煉混和シタル者ニシテ全塊中同質ナルヿ疑ナキ地金
ハ試験鎔解ヲナスヿヲ要セス始メコレヲ地金局ニ
取ルヿ一塊毎ニ一片或ハ二片ノ試験片ヲ截リ取リ
分析局ニ送テコレヲ截ル金塊ト試験片トヲ秤量シ地金主ニハソノ
合量ト假請取書ヲ與ヘ計算課ニ金塊ノ量若干
試験片ノ量若干トヲ報シ試験片ハ試験分析
局ニ輸リ金塊ハ地金局ニ藏ム既ニシテ試験分析
終レハ分析局試験分析局ナリ以下皆同ヨリ試験片ヲ返シ来リ且
品位ヲソノ金塊上ニ記スナリ而後「テンドル」發行
三日ヲ過テ金塊ト試験片ヲ併セテ鎔金局ニ輸
等ノヿハ總テ前ニ同シ

明ニ價位ヲ記シタル地金ハソノ「テンドル」ヲ渡キアリ

ヲ要スル者ノ事

桑港金塊及英国金塊等ノ如ク品位ト重量ノ
記アリテ精製者ノ印章著明ナル者ハ試験鎔解
ヲ要セサルノミナラス試験分析モ亦前ノ如クセス此等
地金ヲ輸入スル時ハ先ツ一塊ヲトリソノ重量ヲ検シ
地金主ニ典フル假請取書ニハ地金ノ名称塊数全
量并其品位等ヲ記載ス計算課ヘ報知モ亦コレ
ニ同シトイヘトモ更ニ試験片ノ量ヲ記スルナリ既ニ
量ヲ検シ終ル時ハ分析局ヨリ来ル一塊毎ニ一片式
両片ノ試験片ヲ截リ取リコレカ試験ヲナスナリ

ヲトツキ[illegible]トヲ用リ地金ニ位記アレ
ハ更ニソノ正否ヲ訂ス為メニ試験スルヲ謂ナリ

分析局ヨリ試験片ヲ地金局ヘ送シ金塊ニ記シタル品
位ヲ改正スル而シテ「テンドル」發行ヨリ三日ヲ過キテ
コレヲ鎔金局ニ輸ル等ノ事ハ前ニ同シ

価位詳明ノ地金ニシテ「チエッキ、アッセー」ヲ
要セサル者ノ事

内外貨幣但我旧貨幣ノ品位詳明ナル者則英
エレイル金貨佛ノ二十フランク金貨等ヲ輸入スル
ハソノ重量ヲ秤定シテコレヲ受取リ地金主ニ地金
ノ名称重量品位ヲ記ル名假請取書ヲ與ヘテ

美誤ヘモ亦之レヲ報知シ試驗鎔解ハ試驗分析トヲ要セス直チニ改鑄ノタメ鎔金局ニ輸リ又此事ヲ美課ニ報ス

成貨ニ適セザル地金ノ事

試驗分析ニ由テ貨幣ヲ鑄造スルニ適當セザル地金ナルヿヲ確知スルトキハ造幣頭ヨリ地金主ニ分析評ヲ與ヘ此事ヲ告ケテモツテ試驗費及試鎔費或ハ試驗費ハ試鎔ヨナサリシ地金ナレハ償ハシメソノ地金ヲ返却スルヲ以テ法トス若シ不適當ノ地金アルトキ暫ク之レヲ地金局ニ藏メオキ追テ地金主ノ來ヲ待

分析評ニ照シテ地金及碎屑試驗片ハ碎屑ニ合ス等法ニ從ヒ之レヲ返與スヘシ

成貨受授ノ事

極印局ヨリ成貨ヲ地金局ヘ輸ヒ(ス)トキハコレヲ秤量シテソノ名称ト重量ヲ記シタル地金局ノ請取書ヲ極印局長ニ附與シ成貨ハ貨幣改メ方ヲシテ一々コレヲ檢査セシメソノ疵瑕アル者汚斑アル者屬面不分明ナルモノ及響ノ清朗ナラサル者等凡ソデフェクチブコーイン(不出来ニ属スル者ハ撰リ出シテ貨幣)コレヲ極印局ニ返シ更ニ同貨幣ノ精美ニ同量

極印局

政府ノ決議ヲ以テ取定メタル貨幣ノ模様ヲ壓器ヲ以テ之ヲ壓印スルヲ掌ル所ナリ

機関室

機関ノ運轉作用ハ各工業場ニ通シテ數條ノ鐵線ヲ梁上天井ニ傳布シテ其カラクリ伸金局ニ在テハ伸金器械ニ通シ秤量局ニ在テハ秤量機械ニ通シ焼生局ニ在テハ輪縁器械ニ通シ極印局ニ在テハ壓印器械ニ通シテ其運轉ヲ自在ニ為ル機カ一ニ此機関室ノ動靜ニ由レリ故ニ此室ニ於テ石炭ヲ焚テ蒸氣ヲ発シ其カラ假ヲ機関ノ運轉ヲ緩急スルトキハ諸場ノ器械従テ運轉ス一動一止悉ク此機関ニ由ル其妙用亦大ナリ

彫刻所

政府ノ決議ヲ以テ取定メタル貨幣ノ極印ヲ彫刻シ器械ヲ以テ一種數個ノ極印ヲ壓刻シ或ハ印章等ヲ製スル所ナリ

右九局專ラ造幣工事ニ関ス

陶汰所

名称品位重量ヲ詳記シ少ク請取證書ヲ渡シ別
モツテ其貨幣ヲ受取リ之ヲ地金局ヘ藏ノオキ
他日鎔解局ニ付シコレヲ改鑄セシム此ノ時ニ當
リテ又ソノ名称位量ヲ記シタル證書ヲ作リ之レヲ
計筭課ニ報告ス不ル来円形ハ焼生局ヨリ出ル者
シテ其請取書及他日コレヲ地金局ヨリ鎔解局ニ渡シ
計筭課ヘ報告スル等前ニ同シ又過軽円形ハ秤
量局ヨリ出ル者ニシテ他日コレヲ鎔解局ニ渡シ
及截屑ハ伸金局ヨリ出ルモノニシテ他日コレヲ鎔
解局ニ渡ス等受授ノ受取書報告書ヲ要スル

總テ前ニ同シ

交銅ノ事

銀貨ノ交銅ハ通例ノ銅線ヲ造ルヘキ棹銅ヲ
用ヒドモ金貨ノ交銅ハ再三精製ヲ經テヨリ練熟
シタル者ニ非レハ用ニ堪ヘズ故ニ之レヲ地金局ニ貯ヘ
置キテ隨時鎔解局ノ請求ニ從テコレヲ分與ス
此其大略ナリ若夫之ヲ處分スルハ則チ各局
各課職掌ノ下ニ於テ自ラ推知スヘシ

地金局

此局ニ於テハ外輸納スル各種ノ幣材ヲ受取リ

内鑄造セシ貨幣ト再鎔ヲ要スル金銀載瓦等ノ受授ヲナス所ニシテ一切政府并内外人民ヨリ輸納スル金銀幣材又ハ本寮ヨリ輸出スル各貨幣トモ総テ此局ヲ経歴セサルハナシ故ニ其事務極メテ多端ニシテ其責任モ亦重シ因テ其掌ル所ニ従テ課ヲ分テ事務ヲ異ニス則チ計筭出納ノ二課アリ而シテ各幣材ノ運用ヲ掌リ貨幣ノ進退ヲナス等ハ専ラ此局長ノ擔任スル所ナリ

計筭課

寮中工業ノ諸局ニ通シテ簿記ヲ掌リ計筭ヲナス

ニシテ凡ソ幣材輸入ノ日ヨリ貨幣分賦ノ期ニ至ルマテ各局相受相授ル際諸報告ヲ得テ逐一検査シ之ヲ日記或ハ原簿ニ記載シ又ハ諸書ヲ制シテ之ヲ各局ニ附與スル等一切計表簿記ノ事ヲ専任セリ

出納課

此課ニアルモノ初メ出納寮ヨリ汎出セシカ近頃此局ノ一課ニ屬シ政府及ヒ人民ヘ交附スル貨ノ好悪ヲ検視シ其負數ヲ調査シ之ヲ地金輸納人ヘ分賦スル等ノ出納ヲ専任セリ

右一局ニ課專ラ造幣計筭ニ関ス

鎔金局

鎔銀局

此二局ハ試鎔解ラナシ又ハ試驗ヲ經タル各種ノ金銀或ハ碎屑ヲ爐中ニ鎔解シ棹金棹銀ニ鑄製スルヲ掌ル所ナリ

試驗分析局

鎔解セシ金銀地金ノ品位ヲ試驗分析シテ其實否ヲ詳ニシ又其原質ヲ明ニスルヲ掌ル所ナリ

伸金局
伸銀局

此二局ハ政府ノ決議ヲ以テ取定メタル品位ノ棹金棹銀ヲ敷延シ各種ノ円形ニ截断スルヲ掌ル所ナリ

秤量局

金銀各種ノ円形ヲ秤量スルヲ掌ル所ナリ

焼生局

金銀各種ノ円形ニ輪縁ヲ刻シ以テ焼生シテ稀硫酸水ニ漬シ之ヲ洗淨シ黄白ノ光彩ニ復セシムルヲ掌ル所ナリ

十二老ト更換シテ前ノ精良ナル貨幣ニ合シテソ
全量ヲ合筭シ先ツコレラ函ニ容レ陳列シテ一紙
片ニソノ貨幣ノ名称箇数及重量トコノ重量ト
正貨一枚ノ重量規則ニ適フ者ヲ云ニテ較筭スルトキノ円数並ニ左ノ「ピ
クスピース」ノ数ヲ記シオキ造幣頭ト外国首長トヲ請
ヒ来テ他ノ大試験一年一回ノ大試験ニ供スヘキ貨幣コレラ「ピクスピース」
ト云供試貨幣ト言テ可ナラン欤ヲ撰取スルヲ俟テ残スト・コロノ貨幣ヲ
出納課ニ渡シ更ニソノ重量ト員数トヲ調査シ貨
幣色方ヲシテコレヲ紙包セシメ事了ツノ貨幣
ノ重量円数及コノ円数ヲ正量ノ貨幣ニテ較筭

スルトキ重量ト上ノ重量トノ過不及ニ由テ起ル
所ノ損益ヲ地金局長ニ報スヘシ初テ極印
局ヨリ地金局ヘ受取リタル某ノ貨幣ハ若干ノ
重量ニテ若干ノ円数アリ又ソノ「ピックスピース」
ノ重量ハ若干円数ハ若干ニシテ出納課ヘ渡スト
コロノ重量円数各若干又コノ貨幣ニ就テノ損益若
干トシテ「フ」ヲ計筭課ニ報ス
不出来貨幣不出来円形過軽円形
及截屑ノ事
不出来貨幣ヲ極印局ヨリ地金局ヘ輸ス其ハソ

凡ソ金銀塊ヲ熔解スルニ多少ノ金銀自ラ坩堝中ニ固着スルモノアリ或ハ其過度ノ烈火ニ因テ破壊スル者アリ或ハ尋常熔解ノ時ニ當テ別ニ揮發昇騰シテ再ヒ爐灰中ニ落ツル金銀アリ故ニ此蒸氣磨ヲ設置キ前條破壊ノ坩堝及爐灰等ヲ集メテ挽磨碎粉シ水桶ニ投シテ漉器ヲ以テ振蕩シ其金屬粉ヲ得ルヿ。要スルノ場所ナリ

○極微モ遺スヿナキヲ

工作所乃チ銅細工所

寮内用ノ銅細工ノ事ヲ掌ル所ナリ

鍛冶所

銅鐵諸器ヲ製造修理スルヲ掌ル所ナリ

製作所乃チ轆轤所

轆轤ヲ以テ諸機関ニ屬スル所ノ銅鉄機械等ノ損失ヲ改正補理スルヲ掌ル所ナリ

精製分析所乃チ北分析所

金銀混合物ノ地金ヲ分析シテ之ヲ殆ト純金純銀ニ精製シ其原質ヲ明ニスルヲ掌ル所ナリ

硫酸製造所

各種混合ノ金銀ヲ分析スルニ硫酸水ヲ用ユルヿ

第一ノ要用品ナレハ試験分析所精製分析所ニ
於テスル而已ナラス焼生局ニ於テモ日々円形ヲ洗淨
スルニ必需ナレハ乃チ其用ニ充ツ若シ製造スル所ノ餘リア
レハ之ヲ世上ニ賣興シ一般ノ便用ニ供セントス

瓦斯製造所

寮ノ内外及ヒ外国人居宅共夜間非常ヲ警戒
スル為メニ之ヲ製シテ毎夜燈火ヲ引カシム其
光燄寮ノ近傍数百歩外ニ映暉シ殆ト白日ト
異ナラス又之レヲ不夜城ト云フテ可ナリ

精製石炭製造所

金銀塊ヲ熔解スルニ尋常ノ石炭ヲ用ユルハ不適
當ナルカ故ニ之ヲ焼テ精製シコレヲ号ケル
モノトナシ熔解ノ用ニ供ス

器具貯藏局

寮中日用ノ器具ヲ貯藏シテ各工業場ノ需用
ニ應シ之ヲ出納スルヲ掌ル所ナリ

監察局

寮中工業ニ関スル諸局ニ於テ仕役スル職人数
員アリ各其職務ノ際千差萬別ナレハ人心ノ有

スル所ナレハ或ハ盗心アルモ亦知ル可カラス
因是此局ヲ置キ吏員ヲシテ巡視検査セシム
特ニ職人毎朝出勤ノ節ハ局ニ来テ自衣ヲ
脱シ裸体トナツテ各其仕役スル所ノ局名ヲ記シ
タル官服ヲ着シ各局ニ従事ス其退出スルヤ
一層精密ノ検査ヲナスタメニ此局ニ横ハル貫
木アリ側ニ飲水器及櫛等アリ先ツ官服ヲ脱
セシメ口中ヲ漱キ散髪ヲ櫛ラシム終テ
貫木ヲ越テ全躰中金銀片鞋モ潜ス所ナキヲ
検スルニ其上ノ局吏ト此ノ監吏ト立會毫モ

疑ヒナキヲ認シ始テ自衣ヲ着シテ退寮スルヲ得
セシムルナリ

庶務課

課中分レテ二トナル一ハ頭ノ書記ニシテ諸官省
ノ公務ニ係ル百般ノ往復及ヒ寮中各局ノ報
告ヲ管理シ或ハ令状ヲ制シ或ハ指令ヲ成シ
一切簿冊ノ謄記ヲ掌ルモノナリ為シテ電信技
術方英和反譯方等モ此ニ属セリ一ハ寮中諸
官員及ヒ職工等ノ給料其他百般ノ経費ヲ辨
理シ各局需用ノ物品ヲ購求スル等都テ寮中

ノ雑務ニ関係スル用度ヲ掌ルモノトシテ
銀行及ヒ用達等此ニ属シテ或ハ金額ノ兌換
ヲ便シ或ハ物品供給ヲ理ス

營繕課

此ノ課ノ官員ハ初メ土木寮ノ出張ヨリ此寮
ニ属セシカ近頃更正シテ此寮ノ一課トナル
寮中一般ノ土木ヲ主トリ其他ノ修理ハ勿論
工業ノ為メニ要スル新築ノ経営等首長ノ指
揮ニ應シテ繪圖ヲ制シ豫メ経費ヲ定メ頭ノ
検印ヲ乞フ之ヲ營繕スルヿヲ司ル

右数局當寮要用ナル者ニシテ之ヲ設ク
夫斯ノ如ク造幣寮ハ所轄ノ各局各課ア
リテ其事務ヲ管理整頓スルヿナラシム
寮ノ一部分タル銅銭局モ亦既ニ落成シ
殖間業ニ向ントス工業益盛大規則愈精
密從テ善美ナル金銀銅ノ三貨ヲ鑄出
シ之ヲ文明諸邦ノ造幣寮ニ比スルトモ亦
敢テ恥ツルヿナキニ至ル若夫寮中建築ノ
壮麗ナルハ間巷ノ圖ニ摸寫スルカ如ク歐米
各国ノ礎線ニ出ヅ日本ノ有ハ建物

ナリ之ニ加フルニ鉄道アリテ運輸ニ便シ
電線アリテ通信ヲ利シ氣燈以テ内外ノ
全地ヲ照輝シ学制ヲ満寮ノ子弟ヲ教
育スヌ疾病ヲ保護スルニ養生醫局アリ派
常ヲ警戒スルニ守衛兵局アリ其他百般開
明ノ美事相挙リ工業ノ進歩駸々チト長
殆ト止ムヘカラサルカ如シ豈之ヲ称揚セサル
ヘケンヤ嚮キニ旧大藏大輔井上馨造幣權
助久世喜弘ヲ東京ニ召シ造幣寮創立ノ顧
末ヲ縷述セシメ我記録頭立嘉度ニ命ス

ル編輯ノ任ヲ以テス實ニ容冬十一月下旬
也泰乃チ其令ヲ稟ケ久世氏ニ就テ其顧
末ヲ推問シ或ハ簿冊ニ索メ終ニ一稿本ヲ
而シテ大輔ノ左右ニ因テ之カ刪正ヲナスト雖
モ猶當時ノ簿冊全備セサルヲ以テ詳細
ヲ得ル能ハス因循以テ今日ニ至リ復之ヲ
造幣寮諸官ニ質シテヤヽ其稿ヲ脱セ
シトスルニ至ル則チ創業記是ナリ蓋シ其
紀事タルヤ此寮ヲ茲ニ創立スル所以ノモノ
ヨリ尚寮ノ一事ニ至ルマテノ顛末ヲ示シテ

未タ寮中各局ノ工業施為如何ヲ記スル
ニ及ハス豈遺憾ナラスヤ因テ寮中諸君ト
議シ貨幣鑄造ノ手續及寮中各局ノ位
置ヲ略載シ其事務ノ順序ヲ記シテ以テ
附録トス其詳細ノ景況ヲ見ント欲セハ年
報書或ハ計算簿記ノ書アリテ其事實ヲ
明カニス故ニ此篇ハ本寮創立ノ概略及
工業ノ大意ヲ掲クルノミ看官之ヲ諒セヨ

明治六年九月

記録中屬嶋邸泰謹識